

**[成果情報名]タバコナジラミバイオタイプQの幼虫に対する各種薬剤の殺虫効果**

**[要約]**タバコナジラミバイオタイプQの県内2個体群の幼虫に対する殺虫効果が最も高い薬剤はサンマイトフロアブルであり、次いでアフーム乳剤、ダニトロンフロアブル、スタークル/アルバリン顆粒水溶剤、ハチハチ乳剤、ベストガード水溶剤である。

**[キーワード]**タバコナジラミバイオタイプQ、幼虫、薬剤感受性

**[担当]**総合農林試験場・環境部・病害虫科

**[代表連絡先]**電話0957-26-3330、電子メールyogawa@pref.nagasaki.lg.jp

**[区分]**野菜（生産環境）

**[分類]**指導

---

**[背景・ねらい]**

2005年にわが国での発生が初確認されたタバコナジラミバイオタイプQは、広範な地域および作物に定着していることが明らかになりつつある。本種は海外においてネオニコチノイド系剤の一部やピリプロキシフェン（商品名「ラノー」）に対して抵抗性であるとされ、国内でもこれまで薬剤感受性が検討されてきた。その結果、数種の有効薬剤が明らかになっているが、栽培期間が長いトマトやナスなどの果菜類やアスパラガスなどでは、有効薬剤が絶対的に不足している。また、これまで国内での感受性検定は主に成虫を対象に行われており、幼虫の薬剤感受性については不明な点が多い。

そこで、有効薬剤の不足を補うため、幼虫を対象に各種薬剤の殺虫効果を検討し、本種の防除体系に組み込みが可能な薬剤を明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. 県内2カ所で採集したタバコナジラミバイオタイプQの幼虫に対する殺虫効果が最も高い薬剤は、サンマイトフロアブルである（表）。
2. 両個体群ともに補正死虫率が80%を超える薬剤は、アフーム乳剤およびダニトロンフロアブル、スタークル/アルバリン顆粒水溶剤、ハチハチ乳剤、ベストガード水溶剤である（表）。
3. 合成ピレスロイド剤およびIGR剤の殺虫効果は低い傾向にある（表）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 2007年2月現在、供試薬剤のうちアフーム乳剤およびダニトロンフロアブル、マラバッサ乳剤はタバコナジラミに対して未登録である。
2. 各薬剤の作物ならびに害虫の適用については、県病害虫防除基準や県病害虫発生予察技術情報など最新の情報に従う。
3. 本試験は、各薬剤の常用濃度で行った室内検定であり、圃場における防除効果はこの結果と異なる可能性がある。

[具体的データ]

表 タバココナジラミバイオタイプQの幼虫に対する各種薬剤の殺虫効果

系統名	検定薬剤	有効成分量 (%)	希釈倍数	採集地点等	
				トマト 島原市	キュウリ 南島原市 有家町
ネオニコチノイド	アドマイヤー 水和剤	10	2,000	36.7	29.5
	モスピラン 水溶剤	20	2,000	79.5	64.8
	ベストガード 水溶剤	10	2,000	<b>84.5</b>	<b>80.4</b>
	ダントツ 水溶剤	16	2,000	35.9	73.0
	アクタラ 顆粒水溶剤	10	2,000	24.1	21.9
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	20	3,000	<b>91.4</b>	<b>86.9</b>
	バリアード 顆粒水和剤	30	2,000	63.8	<b>84.7</b>
合成ピレスロイド	トレボン 乳剤	20	1,000	7.3	0
殺ダニ	サンマイト フロアブル	20	1,000	<b>100</b>	<b>100</b>
	ダニトロン フロアブル	5	2,000	<b>87.3</b>	<b>92.1</b>
	コロマイト 乳剤	1	1,500	70.4	<b>84.7</b>
IGR	アプロード 水和剤	25	1,000	4.5	13.1
	ノーモルト 乳剤	5	2,000	5.3	0
	カウンター 乳剤	8.5	2,000	11.2	5.6
IGR・殺ダニ剤混合	アプロードエースフロアブル	4・20	1,500	75.9	<b>85.3</b>
有機リン・カーバメート混合	マラバッサ 乳剤	30・40	1,500	0.8	4.9
キノキサリン系	モレスタン 水和剤	25	1,500	76.9	74.8
その他	アフファーム 乳剤	1	2,000	<b>97.2</b>	<b>96.5</b>
	チェス 水和剤	25	3,000	53.5	25.2
	ハチハチ 乳剤	15	1,000	<b>89.2</b>	<b>84.0</b>

※数字は補正死虫率 (%), 太字は補正死虫率80以上, 〃は40未満。

※供試虫は2006年6月～9月に採集

※2007年2月現在, ダニトロンフロアブルおよびアフファーム乳剤, マラバッサ乳剤はタバココナジラミに適用なし。

※検定方法: インゲン葉を用いたリーフディスク法により実施。トリトンX-100 0.05ppmを添加した, 所定濃度の供試薬剤を, 卵後期に薬剤回転散布塔にて散布し, 風乾後寒天ゲル上に保持, 25℃下で8日後(3齢幼虫期)に生死を判定した。

[その他]

研究課題名: 農林業生産現場への緊急技術支援プロジェクト研究

予算区分: 県単

研究期間: 2006年度

研究担当者: 小川恭弘

発表論文等: 第72回九州病害虫研究会にて口頭発表